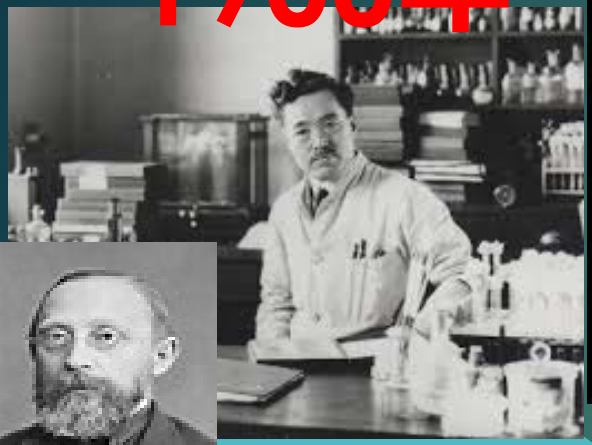
第７回　日本医学ジャーナリスト協会

いのちの値段

- オプジーボ
- 新技術の行方
- ゆらぐ現役世代
- 高齢者は今
- 支える家族
- 透析と人生
- 人生の最終章
- 精神疾患
- 「適正」を探る
- 対話のカタチ
- 地域をつなぐ　（完）

1900年



1976年

1964年

1976年→2007年→現代

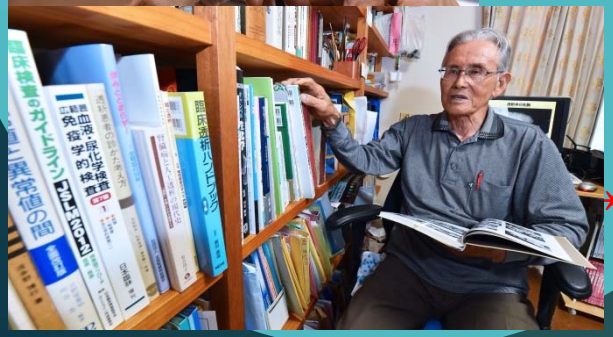
治す医療から
治し支える医療へ

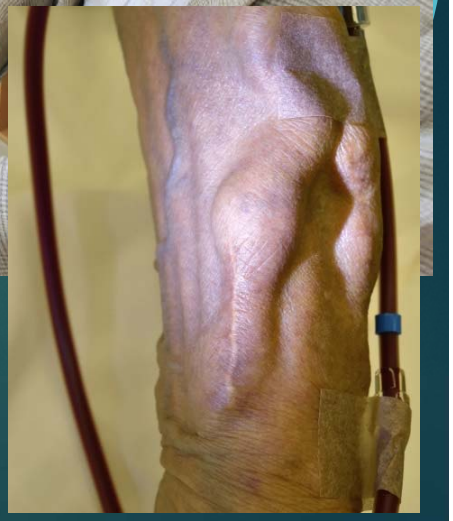
いのちの値段

オプジーボを巡る人間模様

いのちの値段

人工透析

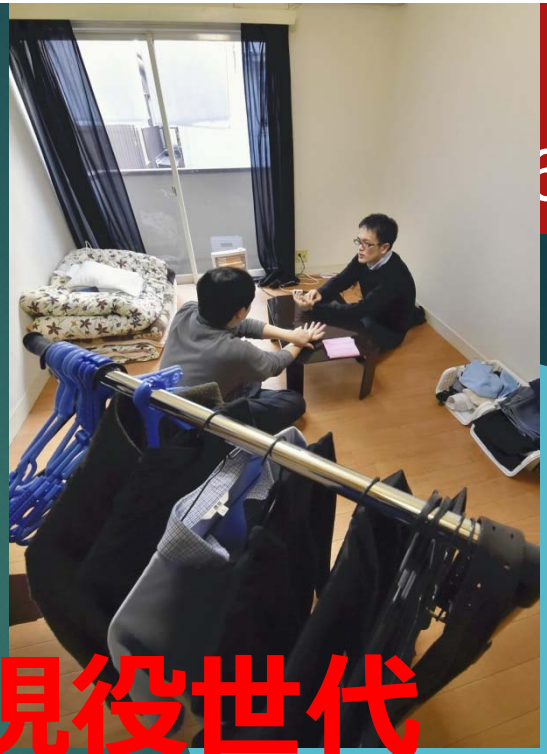




最先端の医療から

高齢社会を象徴する医療へ

いのちの値段



ゆらぐ現役世代

いのちの値段

「適正」とは何か
「対話」は成立するか
「地域」をどうつくるか

A-2
病むからこそ、死があるからこそ、分かること、人と分かちあうことがある。
いのちの値段
医療と費用を巡る50の物語
読売新聞医療部
がん患者も多様だ。それぞれの生き方や価値観がある。いのちを人に丸投げにはしたくない。
——なかにし礼
「オプジーボ」から「新技術の行方」まで
読売新聞に連載されて大反響!
日本の力を最も有効に生かす医療費の使い方は何か。この国の哲学がまさにいま問われている。
いのちの値段を前に、人は切ないが、あったかい。
受賞!